



菊池 巳喜男 議員
(市民クラブ)

一括質問方式

【その他の質問】

- 全国学力・学習状況調査から見えるものと今後の取り組むべき課題について
- 水源地の保全をどのように認識しているのか

岩手県の死亡家畜の処理方法についてどう考える

問……………

死亡牛の処理について岩手県内でも県北と県南地区では、一時保管施設など対応に差があるのではないかと。農家等からの運搬方法についても、指定業者のみが対応している現状と不便が発生している。更には、処理先が県外であり、相手方の都合で突如受入停止の事態に陥る不安も生じる事から、畜産の産地として処理施設整備と効率的な運搬体制を構

答……………

築し安心して畜産業に取り組める環境整備が必要ではないか。

最終詰めをしている段階であり、今年度内に計画が示される見込みとなっている。その施設が完成すれば、農家の持ち込みも可能となり、この件については本市のみならず県全体の課題として、関係機関と連携し協議、要望をしていきたい。

東北油化㈱の倒産を受け、今まで県南地域の畜産農家に負担と不安を与えているが、岩手県では、緊急対策として群馬県の処理業者に依頼し代替策を確保している。その中で、県では関係市町とJA等が協議し、県南畜産保健衛生所管内に一時保管施設の必要性が確認され、建設に向けて

和牛振興対策について

問……………

平成23年度から地域内一貫生産体制確立のため、繁殖素牛・肥育素牛の保留や導入に対する支援を行い黒毛和牛子牛の産地形成と「いわて遠野牛」のブランド確立の推進を図ってきている遠野牛確立強化対策事業の成果と課題について伺う。

牛310頭の保留や導入が図られ遠野牛の生産に取り組み体制が整備された。一方課題としては、高齢化の進行に伴って、農業生産の根幹となる生産人口の減少が挙げられ繁殖農家と繁殖頭数は3年間で124戸312頭が減少している。

答……………

公共牧場再編整備事業で整備された大野平・石羽根両キャトルセンターは哺育育成で

300頭、繁殖牛で400頭の受け入れ規模であるが、利用実績と今後の運営について伺う。

平成23年度から整備を開始、総事業13億円をかけ平成27年度で整備が完了する、大野平キャトルセンターでは現時点で哺育育成37

問……………

高齢化の進行とともに、飼養農家や飼養頭数が減少している中にあって後継者や新規就農者の育成確保が求められているが、その支援策について伺う。

頭、繁殖牛で58頭が利用している。また、石羽根キャトルセンターについては、10月末から供用開始を予定している。除染作業も完了し、平成28年度までに当初計画を目指して利用者に対するPRに努めていく。

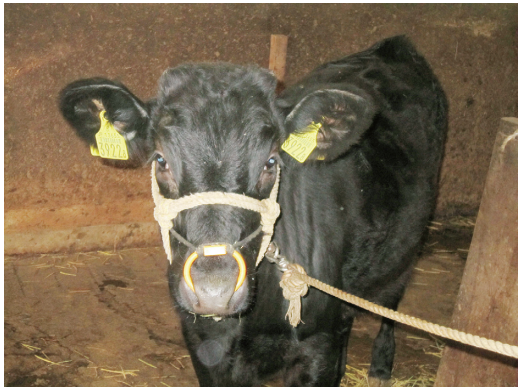


今年、10月末から供用開始予定の石羽根キャトルセンター



菊池 充 議員
(遠野一新会)

一問一答方式



いわて遠野牛の期待を担う子牛

問……………

同協議会の平成26年度決算が2,636万4千円の赤字を計上したが、福祉事業での社会福祉協議会の役割は大きく、どのような対策を講じていくのか。

答……………

少子高齢化の進展と人口減少の中、「第2次遠野市進化まちづくり検証委員会」で、これからの地域コミュニ



社会福祉協議会の事業の一つ、福祉バザーの様子

答……………

平成24年度に創設された青年就農給付金制度の活用により現在15経営体が就農し、うち7経営体が肉用牛繁殖農家となっている。概ね3年間の所得無収入期間がありその支援策として、新規就農者を対象とした家畜導入助

成及び公共牧場やキャトルセンターの利用料助成など経営面での支援を講じていきたいと考えている。